

## 新刊紹介

### ○并リス著地質構造 Geologic Structures by

Bailey Willis, New York and London, 1923. pp.

205. (丸善賣價七、三五) 構造地質學に關する記載

は英米獨佛諸國の大きな地質學教科書と雖も、其の機制まで詳らかに論究したものが乏しい。

此の問題は著者が三十二年前にギルバートから注意されたといひ、アブラチャ山脈成生の機制を研究する動機が此の時にあつたと序文に見えてる通りで、第一篇に層理地質の機械的變動節理火成岩の構造斷層劈理を説明し、第二篇に岩石變形の機制を論じ、第三篇に野外實測法圖式的方法及實習問題を説明し、尙ほ附録として最大剪動法則の證明褶曲の實驗を掲げてゐる。此の第二篇は本書の眼目と看做されるもので、地盤下層の周邊壓力、應力、溫度を考慮して之に屈從する地層が或は完全に褶曲し或は不十分に

褶曲し或は剪動 Shear 或は節動 Flow が起る要件を論じた。斷層の章に掲げた蘇格蘭高地構造を説明する實驗の如き亦た薄い鱗片の如く沓覆したに上斷層が剪動面に沿ひ生じ得るのを理會せしめるものである。(小川)

### ○信濃鑛物誌

八木貞助氏、

大正十二年六月東京市外西久保古今書院發行定價參圓貳拾錢

我國で博物學研究の最も盛なのは長野縣に及ぶものがない。それは本著者八木氏の様な篤學者を有するが爲めである。本書は最新の信濃産鑛物の研究を集録したものであつて未だ世に公にせられてゐない材料を用ゐられた處も少くない。記述せられた鑛物の數九十一種で既知日本産鑛産物の約半ばに達する。かゝる多數の鑛物が只一つの縣内に於て發見されたのも一に地方篤學家の賜であることは明かである。猶本書には鮮明な圖版と挿圖とが多く挿入されてゐる實際其の内容と云ひ體裁と云ひ地方に關する書籍として稀に見るの良書である。信濃鑛物誌は他の府縣に於ける地學愛好者に對する奨勵者であり先驅者であると言へる。信濃に關係のな

い、人士の一讀を切望する。(ナカムラ)

○朝鮮部落調査豫察報告 大正十二年三月朝鮮總督府發行

本書は囑託小田内通敏君の調査によつた者で第一章に部落調査の意義、經過、計劃をのべ第二章に部落の考察として各道に亙り著名な部落二個又は三個づゝ合計十六の里について部落の構成又は特相、經濟狀態、教育狀況等が述べてある、文中寫眞を以て説明を補足する外、卷末に圖版七十三版を加へ、讀者をして部落の實況を目睹するの思あらしむる。特に卷頭には小田内君が苦心の作、朝鮮郡別人口密度圖がある、交通、地勢と人口分布の關係が明瞭に出てゐる予は此種の報告が第一冊に止まらずして、二冊三冊漸を追うて出版せられん事を望む。

(非賣品)(藤田)

○北滿洲と東支鐵道上卷

大正十二年五月  
南滿洲鐵道調査課

本書はオムヌク政府のミハイロフ氏が學者を集めて一九二二年二月に完成した東支鐵道廳の編纂物を翻譯した者である。第一編北滿洲概況

には北滿洲の地理及住民と經濟組織を論じ更に行政組織を記し第二編生産業には農業、穀物取引、穀類取引と其輸送、畜産業總論、牧羊と牧馬、牛、養豚、養禽及漁業。林業、及其他の生産業。として森林及鑛物特に石炭に關して詳細なる説明と統計的研究がのつてゐる。下卷は工業編と東支鐵道編との二部から成立してゐるがまだ發刊されない、上卷だけで五百五十四頁の大冊子で地圖及圖表の數四十四に達し印刷鮮明材料豊富なる權威的著述である。蓋し北滿洲の現勢を諒解するに本書の如く有益なるは稀に見る所で敢て江湖に一餐をすゝめる。(藤田)

### 質疑應答

(問) ブリュックナーの週期に就き簡單なる説明を乞ふ。(信州、好學生)

(答) 氣候の變動に週期的なると連續傾向的なるとの二種ある。週期的變動は太陽の黑點に關